



## 教材開発センターについて

### 概要

平成23年4月1日、九州大学附属図書館付設教材開発センターが設置されました。  
本センターは、ICTを積極的に活用した教材の開発・作成支援を通じて、本学の教育の質向上を図ると共に国際社会に拓かれた教育研究環境を構築します。  
「進化する新たな電子化教材の開発と作成支援」、「新たな教授方法や学習方法の開発」、「自律的な学習と実践力を育成する教育技術の普及と促進」といった新たな教材開発の試みが教員・学生と一緒に行われるとともに、センターから本学の優れた教育資源等を国内外に情報発信します。

### 背景

近年、情報メディアや情報通信技術（ICT：Information and Communications Technology）の発展は目覚ましいものがあります。大学教育においても、ICTを教育に活用することにより授業内容を豊かにし、新たな教授法の提案・採用により高い教育効果を得ることができます。こうした活動を通じて教材を蓄積、オンラインで学内外に公開することで、学生は授業の予習や復習に活用し、教員は教材の高品質化とそれによるより良い教育への動機付けを得ることができます。また、大学志願者への情報提供、市民の学習意欲の向上や自学自習の機会の提供、企業への情報提供などを実現します。

### 内容

教材開発センターは3つの部門から構成され、それぞれの活動は次のように考えています。

#### 【エデュケーショナルテクノロジー部門】

インストラクショナルデザイン(※注1)に基づいた教材、教育方法を開発・適用し、協調型・学生主導型学習を推進することで、自律的な学習と実践力を育成する教育技術の普及と促進を行います。

#### 【コンテンツデザイン部門】

双方向型3次元マルチメディア(※注2)やゲーム性を活用した携帯端末やデジタル放送等の新技術に対応する教材コンテンツの開発を通して、学習意欲を高めるコンテンツの作成技法や作成効率を高める作成ツールを提供します。

#### 【オープンエデュケーションリソース部門】

OCW(※注3)、YouTubeなどを活用したオンデマンド学習(※注4)の推進と、これら教育コンテンツ再利用のための著作権処理システムやSNS(※注5)の活用、教材の公開を通じて、学内外の双方で知の公共化と学びの共同体の醸成をリードします。

これまでのような教員だけが知識を提供する教育形態ではなく、学生と一緒に教材作成や学習を進める教育形態を目指しています。また教材の整備・開発の支援、それらの蓄積や公開を行います。授業情報の収集提供の一環として授業の録画なども行っています。

### 効果

- ・講習会の実施による教員のスキルアップ、図表などの作成支援を通じて、教員の教材作成を支援することで、現状よりさらに高品質の教材を準備できるようになります。
- ・既に作成済の教材や授業の録画などで、著作権が問題になる部分の処理を適切に行うことで、それらの教材を学内外に一般公開できるようになります。
- ・実際に行われる授業を録画し学生に公開することで、授業の予習や復習に利用して授業内容の理解を深められるだけでなく、外部に公開することで単に教材だけを公開するよりも良い自学自習の環境を提供できます。
- ・3DCG(※注2)を活用した、より高度で分かり易い教材を開発し、授業などで利用することで、学生に学習内容に興味を抱かせることができます。

- ・これまでの教員が話し、学生が聞くだけという授業形態ではなく、学生も参加してともに学ぶという新たな教育・学習形態の開発・普及を行うので、学生から見て、より楽しい授業となることが期待できます。
- ・オンライン教材を蓄積し、国内外に公開するので、誰でも見ることができ、学生でなくても学ぶことができるようになります。
- ・学生が個人のパソコンを利用して、大学の教材を、時・場所を問わず、自由に、自分のペースで学習できるようになります。そのために情報統括本部と連携して、講義室を中心に高機能・高速無線 LAN の整備を予定しています。

## ■今後の展開

今後は次のような活動を行っていきます。

- ・著作権処理を迅速・適切に行える体制を構築
- ・授業支援システムや教材作成ツールの教員向け講習会を実施
- ・教授法・教材開発手法に関連した講演会、FD 活動(※注7)を推進
- ・学務部や情報統括本部と連携して学生個人の PC 普及を促進
- ・情報統括本部と連携して、講義室を中心に高機能・高速無線 LAN の整備 (2012 年度内)

## ■用語解説

### (※注1) インストラクショナルデザイン :

教員が学生にどのように教えると効果的であるかということを考えて授業を設計することで、e-Learning などに関連して良く用いられる表現です。

### (※注2) 双方向型 3次元マルチメディア :

双方向は対話型という意味で、人とコンピュータが相互にやり取りしながら作業を進める使い方、3次元マルチメディアはコンピュータを利用して作成する映像・イメージなどを指すものです。つまり利用者の操作に応じて表示が変わるイメージのようなものです。

### (※注3) OCW : Open CourseWare

マサチューセッツ工科大学が始めた高等教育の教材を公開する世界的な活動です。九州大学も参加しています。

### (※注4) オンデマンド学習 :

学習者の要望に応じて提供される教材を使って学習する学習形態です。

### (※注5) SNS : Social Networking Service

人と人のコミュニケーションを取り持ち、コミュニティの場を提供する仕組みです。

### (※注6) 3DCG : 3次元 CG (Computer Graphics)

コンピュータを使って作成された映像・イメージまたはそのための技術です。

### (※注7) FD活動 : Faculty Development、

教職員の資質や能力を改善するための活動です。

#### 【お問い合わせ】

附属図書館付設教材開発センター長 藤村  
 電話：092-553-4434 (大橋キャンパス)  
 092-642-2764 (箱崎キャンパス)

図書館企画課 佐本、牛島  
 電話：092-642-4264  
 FAX：092-642-2330  
 Mail：office@icer.kyushu-u.ac.jp

九州大学は2011年に100周年を迎えました



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011  
 知の世紀を拓く